

未来2

「もくもく」に懸ける夢

木工職人になることを夢見て
地域おこし協力隊(木工芸支援員)として本市に飛び込んだ2人。
彼女たちが見据える未来を探ります。

自分の工房が夢。 津山の技術絶やすことなく継続

— 協力隊に応募したきっかけは

井上 大学でデザインを学んだ後、愛知県の工房で3年間木工を学び、昨年6月から登米市の木工芸支援員として働いています。

高校生の時に、画塾で絵を学んでいました。その教室にいくつかあった木製の家具が、汚れていたものの良い雰囲気があり、家具を作ること憧れを持ち始めたのが木工職人を目指すきっかけです。

している人が何人かいたことと、教授からの勧めもあって登米市の地域おこし協力隊に応募しました。

入岡 前の職場である利府町の「民の森」で働いていた時に、たまたま登米市の地域おこし協力隊の募集を見かけました。

県民の森で働く中で、もともと好きだった自然に対して、より愛着が湧くようになり、それを支える森林や木が好きになりました。もつと木に関わる仕事をしたいと思って、いたところでしたが、慣れた仕事を



地域おこし協力隊
木工芸支援員

井上 優里さん

1992年生まれ、滋賀県大津市出身。大学でデザインを専攻した後、愛知県の工房で3年間木工を学ぶ。2019年6月から地域おこし協力隊として、木工商品を製作しながら技術取得に励む。



地域おこし協力隊
木工芸支援員

入岡 知美さん

1975年生まれ、宮城県仙台市出身。大学の美術学科卒業後、「宮城県民の森」で職員として自然保護業務に従事。2019年11月から地域おこし協力隊として、木工商品を製作しながら技術習得に励む。

少し落ち着いた頃に干支の小物を作る手伝いをさせてもらうようになりましたが、最初は四苦八苦。大先輩の木工職人である西條孝一さんに教えていただきながら、商品が仕上がるまでの工程を学びました。

今も試行錯誤を繰り返しながら、一つ一つの作品を丁寧に仕上げることを心掛けて作業しています。

— 現在の暮らしと将来の目標は

小物作りが好き。 オリジナルデザインの商品作る

— 入岡

失敗繰り返し技術習得



津山木工芸品事業
協同組合

遠藤 勇一さん

木工職人の立場で協力隊員の2人と接しています。今は技術的な基礎ができてきたところですね。疑問な点は積極的に聞きにきますし、やる気が感じられます。失敗を繰り返しながら技術を身に付け、自分らしい作品を作っていってほしいですね。

日々努力し木工に励む



津山木工加工センター

高橋 満さん

二人は勉強熱心で、休みの日でも工場に来て試行錯誤しています。自分がイメージする作品について、職人に教わる事もあるようです。日々努力しているので、先輩の技を自分のものにして、登米市の木工職人として頑張っていきたいと思っています。

地域とのつながり支援



津山総合支所

末永 隆支所長

2人とも慣れ親しんだ暮らしから離れ、数ある木工の産地から津山を選んでくれたことに感謝しています。彼女たちは市の職員でもあるので、技術的な指導は職人さんに任せ、支所では地域とのつながりを持てるよう支援していきたいですね。

講義や交流で育成支援



東北工業大学
地域連携センター

菅原 玲さん

協力隊の2人には、大学の講義や仙台市秋保にある工房の職人との交流の場などを提供しています。協力隊員の取り組みを通じて、登米の木工や森林資源に対する未来について、市民の皆さんが考えるきっかけになることを期待しています。



後継者不足解消の一助 2人の協力隊員に期待



産業経済部農林振興課
千葉 哲彦係長

木工職人の高齢化による後継者不足が大きな課題です。市では昨年度、国の地域おこし協力隊制度を活用し、全国から木工職人の人材を募集。現在、2人の女性隊員が津山地域に居住し、津山総合支所を拠点として活動しています。

彼女たちは木工職人の工房や津山木工加工センターで木工の技術習得に励み、販売活動の支援などにも当たっています。また、木工知識の学習については東北工業大学にも支援をいただいています。

市では、彼女たちが木工職人として定着できるよう支援し、後継者不足解消の呼び水になることを期待しています。



井上さんが作成した
可動棚



入岡さんが作成した
ペン立て

辞めて新しい仕事に挑戦することは私にとつてかなりの冒険。それでも、やりたいことをやらなないと後悔すると考え、思い切って応募しました。縁あって登米市の地域おこし協力隊に採用され、昨年11月から木工芸支援員として働いています。

— 木工芸支援員としての活動は

井上 協力隊になった当初は、津山木工加工センターの皆さんに教えてもらいながら、木を製材したり、それをベンチケースや食器棚に組み立てたりする作業がメインでした。組み立ての作業も楽しかったのですが、

もっといろいろなことをしてみたいと思い、協力隊になって数カ月後、他の作業をやらせてほしいと直談判。時間をかけながらですが、木工の全ての作業工程を経験させてもらえるようになりました。

愛知県で3年間木工を学んだとはいえ、毎日新しく学ぶことばかり。失敗することも多くありますが、周りの優しさに支えられながら頑張っています。

入岡 働き始めた昨年の11月は、もくもくランドが令和元年東日本台風で被災した直後。最初はバタバタで活動どころではありませんでした。